

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470500408
法人名	社会福祉法人 長陽会
事業所名	グループホーム陽
訪問調査日	平成20年 3月 4日
評価確定日	平成20年 5月 2日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4470500408
法人名	社会福祉法人 長陽会
事業所名	グループホーム陽
所在地	佐伯市大字長良4642番地の151 (電話)0972-28-3322

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 3月 4日	評価確定日	平成20年 5月 2日

## 【情報提供票より】(平成20年 2月17日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 880 円			

## (4)利用者の概要( 2月17日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低 85 歳	最高 94 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	松下医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 純和風建築の大きな外観、手入れされた庭木の松などは、ゆっくりと生活を送る場所として利用者に満足してもらえる「大きな家」となっている。
- 利用者は職員と一緒に、草花の手入れ、切干大根づくりなど、経験してきたことを楽しみながら暮らしている。
- 日常生活の中で、折にふれ利用者の写真を撮り、個人ごとのアルバムをつくっている。アルバムを利用者と一緒に見て楽しんだり、家族にも見られている。退所の際には家族に渡して、元気な頃の姿を偲ぶ良き思い出として喜ばれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

項	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果に対しては真摯に受け止め、改善を図って取り組んできている。市や周辺施設への働きかけについては、運営推進会議やその他を通して改善しているが、職員のフォローアップ研修については、さらに今後の取り組みを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の意義を理解し、全職員に自己評価に取り組んでもらい、それをまとめて自己評価票を作り上げている。</p>
項	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、グループホームの取り組みや利用者の生活状況の報告を行い、外部評価の結果についても話し合っている。会議録も整備しており、討議内容についても詳述している。</p>
項	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が月に1度の頻度で開かれ、また遠方にいる家族には毎月の広報誌や個別の手紙などで利用者の様子を知らせ、意見や希望を出してもらっている。さらに、昨年7月、家族へのアンケート調査を行っており、アンケート結果についてのまとめと分析をし、サービスの質の確保に結び付けている。</p>
項	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事への参加や、法人のイベントに地域の協力をお願いするなど地域との連携を図っている。また、日常的に地域のボランティアの受け入れを積極的に行っており、民謡、ダンスクラブ、押し花、読み聞かせなどに来てもらい、地域との連携に努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営方針を理念とし、「地域の中で地域とともに生きる」をモットーに取り組んでいるが、グループホーム独自の理念がない。	○	地域密着型サービスとして、グループホームがどのような役割を担うのか、今一度、全職員で話し合い、グループホーム独自の理念を作り上げていくことが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	住み慣れた地域で暮らせるよう、理念(運営方針)の実践に向けて取り組んでいる。また、選ばれる施設、自分が入りたいと思う施設づくりを目標としている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の多くのボランティアに押し花やダンス、読み聞かせや民謡、日本舞踊などに来てもらい、地域との交流に努めている。今後は、グループホームから自治会や老人会に出向いていく計画をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果を全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。クリアされていない改善点はあるものの、具体的な改善への取り組みが見られる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、サービスの提供について話し合い、議事の内容が詳しくわかる会議録が作られている。外部評価の結果についても会議の中で話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の同業事業所、市職員、地域包括支援センターとで開く地域ケア会議に参加してサービスの質の向上を図り、市町村との連携を深めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度発行する広報誌とともに、職員が書く利用者ごとの手紙で家族に利用者の様子を知らせている。また、家族会を月に1度開いて、報告や相談などに応じている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会を2ヶ月に1回行って苦情や相談を受け付けている。また、「ご意見アンケート」を昨年7月に行って家族の意見を引き出し、結果もよくまとめている。また、家族の面会時には意見を言ってもらうようコミュニケーションを図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動の際、利用者の混乱を防ぐために、他の部署との行き来を行って顔なじみの関係を作るようにしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する職員はごく限られており、また、内部での研修は、計画がなく研修内容も見えてこない。	○	内部研修については年間の研修計画を立て、職員のスキルアップを図っていききたいと管理者が考えているので期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他の施設職員の見学を受け入れ、情報交換や交流を図っている。また管理者は、大分県老人福祉施設協議会のグループホーム専門委員会にも役員として参加し、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みがあった場合、担当のケアマネジャーと一緒に本人に会いに行き、家庭訪問も行っている。また、家族との面談を行って情報を収集し、本人が安心してサービスが受けられるような関係を作り上げる努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は介護されるだけの立場でなく、一人ひとり生活歴や能力にあわせた役割を考えて、ともに支えあう場面づくりを工夫している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自由にその人らしく生活できるよう希望を聞き、意向の把握に努めている。職員で話し合い、本人の望む暮らしができるよう常に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度開かれる家族会や家族の訪問時に、家族の希望や意見を聞き、職員の意見も聞いて、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新規入所については1ヶ月での見直しを行い、その他は3ヶ月に1回、見直している。また、状態の変化があった場合には随時見直しを行い、新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他の医療機関への受診希望が本人からあった場合には、主治医と家族に意見を聞いて受診してもらっている。また、美容室で髪を染めたいという時には連れて行ったり、ふるさと訪問を家族に連絡して、連れて行くなどしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が月に2回あり、必要な人は定期的に診てもらっている。緊急を要する場合は送迎して付き添っている。また、専門外の病院への受診は、主治医の紹介状で双方の連携が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始の際と重度になった際に、家族と終末期に向けた話し合いを行い、家族と確認の書類を交わしている。このグループホームでは現在、ターミナルの看取りは実施していない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常ケアの中でプライバシーを損ねるような言葉遣いや対応をしないように、職員間で確認している。また、個人の記録等については保管を徹底させ、グループホーム職員のほかは勝手に見ることはできない決まりになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、スケジュールを優先させることなく、本人の希望で起床や食事時間など希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体法人から運ばれてくるが、ご飯はグループホームで炊き、できる人には盛り付けや後片付けを手伝ってもらっている。また、週1回の選択食や、季節の行事食で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午後に行っている。その日入らないことがあると、翌日、希望を聞いて入浴してもらっている。ヒノキの浴槽で気の合った人同士で入ることもでき、季節によってゆず湯や菖蒲湯、バラ湯などを楽しんでいる。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々人の能力にあわせ、楽しみごとや力を出せる場面作りを考えている。役割が負担にならないように、生活歴を考慮した楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は前庭に出て、日向ぼっこやリハビリ体操を行い、できるだけ散歩や買い物にも誘うようにしている。時にはふるさと訪問などのドライブにも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に居室や玄関に鍵をかけないで、安全面に配慮している。ドアセンサーは作動しているが、自由に入りでき、出て行こうとする方は職員が見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、利用者を含めた避難訓練を行っている。法人が地域の避難場所になっており、災害時には地域の人の協力も得られる。備蓄については、グループホーム内での3日分の水や食料を準備してくれるよう法人に交渉し、現在準備中だがほぼ整備が終っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者は法人の管理栄養士が立てたバランスのいい食事をしている。また、一人ひとりの好みや食習慣も考慮され、形状も、お粥や刻み、トロミをつけるなどの配慮がされている。食事摂取量や水分チェック表もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や職員が持ってきた花がたくさん活けられて、季節感を出している。また、お雛様なども飾られ、家具も高級感のあるもので、明るく、清潔な感じがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、家族の写真や仏壇などがあり、その人らしい居室づくりになっている。使い慣れた家具やタンスなども家庭から持ち込まれている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 陽
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市大字長良4642番地151
記入者名 (管理者)	田原 房江
記入日	平成20年 2月 17日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	○	昼間は働いている地域の人が多く日常的には困難なことが多い。又、限られた人との付き合いだけではなくもっと複数の人との交流を行なっていきたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今地域のボランティアとして施設に来て楽しみや喜び事の交流の場を提供してくれている。これからは地域からではなくて施設から「出向いて行く」交流を深めていきたい。そして、自治会や老人会への参加ができるよう運営推進会議でも計りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	法人で2級ヘルパー養成講座を行なっている。職員の専門性の向上、地域の方の勤労の基盤になるよう資格取得に貢献し管理者が講師を行なう。これからも地域の為に事業所を含め法人全体で取り組んでいく。
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体や各部署で勉強会を行い人材育成に取り組んでいる。又、外部研修へも適時参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他施設の職員の見学等の受け入れを行いお互いに情報提供を行ったりと交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。又、老社協のグループホーム専門委員会にも役員として活動し常に新しい多くの情報を得て質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務の中でストレスを軽減するために音楽を聴いたり、お茶を飲んだり職員同志の会話を楽しむ時間を設けて休める環境がある。	○ 法人にはバレーボール部が2チームある。職員はバレーの応援等を通してスポーツを楽しみストレス軽減にもなっている。卓球などのスポーツも楽しめるように工夫をしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や勤務状況の把握を行い、楽しく働ける為の取り組みをしている。	○ 理事長や施設長、苑長は職員の相談や要望に常に耳を傾けて会議にも参加を頂いている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望により入所に至るまでは本人に逢って施設の説明をしたり、顔なじみになるなど安心して頂く関係作りをしている。本人の意志や思いを受け止めていつでも活かし合える努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前に必ず施設の見学を行ってもらっている。家族の立場に立って不安や戸惑いを受け止め施設の利点や本人にとってのメリットなど話し合う機会を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や入所希望があった時には入居できない場合他のサービスの利用(特養のショートステイ、ヘルパーを使って頂く)や家族の実情や要望をもとに安心できる対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があった場合利用者のデイサービスに逢いに行ったり担当者のケアマネと家族訪問をしたりと入居の時の初対面を防いでいる。又、家族の理解の基情報の提供により、生活歴などの把握を行い安心の中でのサービスが提供できるよう工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のそれぞれの能力に合わせた支援の中で介護される立場でなく喜びや楽しみの場を共有し、お互いを向上させる関係を築いている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人のペースに合わせ、家族と職員で共に支援する関係を築き「支援している、されている」という一方的な関係を防いでいる。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係が築けるように遠方にある家族には家族会の案内を出したり、状況報告をしたりTELをかけたたり、疎遠にならないように努めている。又、外泊支援や外出支援を行なっている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を大切に今まで培ってきた関係を断ち切らないように美容院に出掛けたり知人の訪問など、又、本人からの手紙の発送介助などの支援に努めている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共に暮らす楽しみを共有して頂くために助け合い支え合えるよう行事参加や日常の中で常に顔を合わせて会話ができるように支援している。又、大正琴や百人一首を楽しむ。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養に入居されたお客様や家族に対しては、手紙やTELなどを行い又、合同家族会での声掛けなど関係を断ち切らない交流を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく(自由にわがままが云える事)生活できるよう希望や意向の把握に努めている。本人の視点に立ってより良い暮らしができるよう話し合いを持ち常に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の能力に合わせ今までの暮らし方や生き方を尊重し、プライバシーに配慮しながら自分らしく暮らせることを支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の流れを総合的に把握し、職員全員が同じ方向で「できること」や「解ること」を自覚し受容することで暮らしの状況を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時や家族会で必要に応じてケアの目標やあり方を話し合う機会を持つと共に他の必要関係者との話し合いの中でより良く暮らすためのケアに取り組むための計画を作成している。	○	家族からの希望を計画に折り込んで作成しているが「私達は解らないので」と引く家族にもっと話し合いの場所への参加を願う努力をしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回もしくは6ヶ月に1回基本をもとに、期間にとらわれず必要に応じてモニタリングや毎日の申送り時において必要な話し合いをすると共に現況に合わせた見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事実やケアの気づきをあるがままに記録し、職員で共有している。又、ケアの必要性を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の行事や他部署との交流においてなじみの関係を作っている。又、全体朝礼を行い各部署の状況や取り組みが共有されているため多くの機能で支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安全で豊かな暮らしが楽しめるようボランティアによる訪問を受け文化に触れる機会を設けている。学校関係の学生の訪問やボランティアも受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービスも必要ではあるか今は家族と話し合いの中でグループホームのみの支援を行なっている。他のサービスは利用していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として会議に出席して頂いている。認知症を地域で支えるための地域資源ネットワーク作りに対して協力の意を持っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が月2回ある。緊急時においても適切な医療が受けられている。又、他病院への受診等も紹介によりスムーズに連絡が取れている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアの中で言葉や視線に配慮しプライバシーを損ねないように対応している。個人の記録物や情報については管理体制の中で保護されている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望をくみ取り、又、引き出せる支援の中で自己決定の必要性や言葉では表すことの困難な方についてはメンタルやケアを含めて本人が納得し、又、喜びにつながる支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基とするスケジュールがあるが能動的に常に一人ひとりに合わせた生活パターンで個々のペースに合わせて本人の思いや希望を優先に支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれは本人の状態の安定につながるので本人の好みや意向、持っている力を活かせるように支援し、美容院への外出や利用を行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の選択食で選べる体制があり行事食についても対応できている。入居者の好みや希望を聞いて栄養士に献立に取り入れている。又、準備や片付けを一緒に行なうことによりその人の能力に合わせた力を活かし合っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこやお酒を飲む人はいないがおやつ等にコーヒー、紅茶、昆布茶等のメニューを用意し一人ひとりの好みに合わせて日常的に楽しめるよう工夫をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者半数がリハビリPの使用者、一人ひとりの排泄パターンにより早めの誘導を行い失敗を防ぐ努力をしている。全員がトイレの排泄を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3回/週を目安に状態に合わせた入浴を行っている。又、気の合った人同士で入ったり時には希望を取り入れている。又、ゆず湯やバラ湯など季節を楽しんでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の自然なリズムで安眠できるよう日中の活動を促し、その時の状況で昼寝や早めの就寝など希望に副える睡眠や休息ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に合わせて楽しみや力を出せる場面を作り役割が負担にならないよう潜在している記憶を最大限に活かして支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力と本人の意思の中で持っている人と特になくない人がいます。外出時には常に自由に使えるように支援している。又、苑内ではお金がなくなったときのダメージなども個々に話し合い共同生活の中での管理方法も常に相談し合っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には前庭でのリハビリ体操や散歩、又、美容院や買い物など出掛ける楽しみの中で気分転換などの支援を行なっている。市内からはずれていることもあり日常的には外出はしていない。	○	美容院や文化的な公演などには出掛けているが行ける人が限られる為皆が楽しめるドライブコースなども増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別な支援になり行きたい所が不明な人も多中、本人の希望により墓参りや自宅への訪問も計画はあっても実施になっていない。	○	家族の人の意見なども聞きながら毎月の計画の中に図ってみたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら本人の読んだり書いたりする力を活かし支援をしている。又、電話は日常的には全員ではないが、かかったりかけたりができるので外部との交流もできている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰にでもいつでも訪ねることができるよう訪問時間の制限はしていない。家族や友達、民生委員など気軽に訪ねている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「カラダもココロも自由の施設です」「身体拘束ゼロ誓言」の施設として職員一同理解している。平成13年より謳っている。個々の尊厳と人権を守るために法人として拘束をしないケアを行なっている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を強化するためにドアセンサーが作動する仕組みになっている。日常的には鍵がかかっておらず常に自由に入ることができるケアをしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の行動パターンを把握しながら常に見守っている。又、本人の状態や気持ちに添って安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全て排除するのではなく特に危険な刃物や薬等は管理の中で使用するが生活上に交流すれば使えるものは一人ひとりの能力に合わせて身近に置いているものもある。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリはっと報告を行いながら事故防止に努めている。又、起きた事故は再発防止に取り組んでいる。毎月避難訓練を行い事故や火災を防ぐための努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	身体状態の急変や事故時に適切な対応ができるように話し合いをしているが実際の場面で生かせる技術は全員は身につけていない。	○	緊急時の対応マニュアルの勉強会のみで終わらず実技を兼ねた訓練を定期的に行なうよう計画する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画に沿って毎月1回の避難訓練を実施している。法人が地域の避難場所になって過去の災害にもおり地域の協力を得られている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や身体状況の変化時において常に家族との連絡を密にし、リスクの発生状況の理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の中で「おかしい」と思ったらすぐに報告、早めの異常の発見に努め情報を共有している。又、毎日のバイタルの測定の記録を行い常に一人ひとりの普段の様子の把握を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬を防ぐ為に職員間で常に話し合い一人ひとりが服用する薬を理解している。又、処方された薬は常にノートに記録されている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防策として毎日の歩行訓練や水分補給に心がけなるべく薬に頼らない働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや義歯の手入れの声掛け等個々に合わせ介助を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士による献立により栄養が片寄らないようにしている。又、一人ひとりの好みや習慣も大事にしている。必要に応じて介助による食事も可能。水分量も把握できている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルにより実行できている。法人の各部署統一の保健所等の研修会にも参加している。	○	ノロウイルス、インフルエンザ等については、来苑者はもちろん、家族や職員全員の手洗い・うがいの実施、マスクの着用を願っている。まだ感染者はでていないので引き続き気を引き締めて感染防止に取り組んでいく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を使用している。又、管理もできている。(野菜等は自家栽培)調理機器も定期的に消毒管理している。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の廻りには生垣や普通家庭と同じようにプランターの花を置いて暮らしの場所となっている。又、スロープがあるので足の悪い方も安心して利用している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通して生花を生けている。又、日常の中で皆の写真や絵画が楽しめるようにしている。共用スペースにおいては家庭的な雰囲気の中でおひな様や五月人形も飾り季節を感じられるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いに気の合った同志が過ごせるように居場所の工夫ができている。和室には「堀りごたつ」が用意されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> <p>居室には家族の写真や亡くなった夫、子供の位牌があり本人の心を癒す居心地よい場所の工夫をしている。又、布団やダンスも使い慣れたものを使っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p> <p>自然の環境に近い状況の工夫をしている。換気、温度調整をこまめに行い快適に過ごせる工夫をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> <p>居室→トイレ→居室へと手すりの設置にて自分の状態に応じて安全に移動できるように工夫をしている。又、トイレにも補助カバーが取り付けられている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p> <p>居室へ自分の表札を出し、他者との居室の間違いを防ぐ工夫をしている。又、トイレにも案内をしている。カレンダーも日めくりにて自分で確認できるようホールに掲げている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p> <p>前庭が広いのでベンチを設置、日向ぼっこや運動、又、花植えなどの作業の場として楽しみを共有する環境にある。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の活動を通して自分の役割を持ち、元気になれる時間を少しでも多く入居者と職員と一緒に楽しむこと。個々の持っている能力に対して最大限の力が発揮できる場所を提供する。ケアの視点として今「できること」を認めることで自信を持っていただくことが「生きがい」になると思います。平成13年4月開苑以来毎日の日常生活を写真に撮り一人ひとりのアルバム作りを行なっています。「あの日・あの時 思い出の1ページ」思い出が記憶の彼方になりつつある今、アルバムの中の自分の姿を家族や職員と懐かしく見えています。法人の年間を通しての各イベント、他部署との交流会を始めとする多彩な行事に参加し外出の機会を多く持っています。「グループホーム陽」は地域住宅の中に位置し、環境に恵まれた近隣の散歩など自然に触れる機会も多い。私達は住み慣れた地域でその人らしく生きていく人間としての尊厳を大切にしながら、ケアの充実を目指し豊かな普通の暮らしが継続できるよう支援しています。